

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について
(予報第7号(11月))

標記について、次のとおり発表します。

なお、当室では、「病虫害発生予察情報」を主に農業指導者向け、別途発出する「病虫害発生・防除情報メールサービス」を主に農業者向けとして発信しております。

《特に注意》

【バラ科果樹】 クビアカツヤカミキリ
【野菜類・花き類】 シロイチモジヨトウ
ハスモンヨトウ
アブラムシ類

《11月の予報概要》

A 水稲

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲	ジャンボタニシ(発生に注意)				

B 果樹類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ(発生に注意)				
果樹類全般	果樹カメムシ類				

C 野菜類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
きゅうり			コナジラミ類		
	退緑黄化病(発生に注意)				
		アザミウマ類			
あぶらな科 野菜	黄化えそ病(発生に注意)				
			根こぶ病		
			菌核病		
				コナガ	

D 野菜・花き類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜 花き類				シロイチモジヨトウ	
				ハスモンヨトウ	
			オオタバコガ		
				アブラムシ類	

《(参考) 1 1月の気象予報》

気温	低い (30%)	平年並 (30%)	高い (40%)
降水量	少ない (30%)	平年並 (40%)	多い (30%)
日照時間	少ない (40%)	平年並 (30%)	多い (30%)

(大阪管区气象台 10月28日発表)

A 水稻

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
ジャンボタニシ (スクミリング ガイ)	発生に注意	[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> 刈り取り後、耕うんして貝をひき潰したり、地表で寒気にさらし凍死させて越冬貝を減らす。 耕うん機などの土に貝が付着することがあるので、移動の際はしっかり土を落とす。

B 果樹

1 バラ科果樹

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
クビアカツヤ カミキリ	発生に注意	[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> 被害が大きい樹は伐採し、破砕や焼却することが望ましい。 伐採した枝や幹はほ場に放置せず処分する。すぐに処分ができない場合は、ネットやビニルシート等で2重に覆う。伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い成虫が分散することを防ぐ。

2 果樹類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
果樹カメムシ 類	やや少ない～ 並	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> フェロモントラップ調査における誘殺虫数は平年より少なかった。 予察灯への飛来頭数は平年並であった。 [注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> 園地により飛来量は大きく異なる可能性があるため、園内を見回り発生及び被害状況を確認する。発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。

C 野菜類

1 きゅうり

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
コナジラミ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉の汁を吸ってネバネバした液を排泄し、その上にすす病に発生するため、葉や果実が黒く汚れる。 ・タバココナジラミは、キュウリ退緑黄化病などのウイルスを媒介する。 ・ハウスの開口部を防虫ネット（0.4mm目合いのネットなど）で被覆し、成虫の侵入を防止する。
退緑黄化病	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キュウリ退緑黄化病は、ウリ類退緑黄化ウイルス（CCYV）によるウイルス病であり、キュウリ、メロン、スイカなどに感染する。 ・CCYVに感染すると、葉に退緑小斑点を生じ、次第に小斑点が増加・癒合しながら徐々に黄化する。 ・CCYVは、タバココナジラミによって媒介されるため、タバココナジラミの防除の徹底が重要である。 ・周辺雑草にも感染するため、除草を徹底する。
ミナミキイロアザミウマ	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期は、葉の葉脈沿いにカスリ状の白い斑点を生じる。 ・ミナミキイロアザミウマは、キュウリ黄化えそ病などのウイルスを媒介する。 ・ハウスの開口部を0.8mm目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
黄化えそ病	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キュウリ黄化えそ病は、メロン黄化えそウイルス（MSV）によるウイルス病であり、キュウリ、メロン、スイカ、シロウリ、ニガウリに感染する。 ・MSVに感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化などの症状を示す。 ・MSVは、ミナミキイロアザミウマによって媒介されるため、ミナミキイロアザミウマの防除の徹底が重要である。 ・周辺雑草にも感染するため、除草を徹底する。

2 あぶらな科野菜（キャベツ、こまつな、しろな等）

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
根こぶ病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あぶらな科野菜の連作を避ける。 ・土壌pHが低い（酸性）と発生しやすいので、石灰質資材等を施用しpH7程度に調整する。 ・土壌水分が多いと発生しやすいので、多湿ほ場を避ける。
菌核病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・菌核が土中に残って伝染源になるので、被害株は、ほ場外へ持ち出し処分する。 ・なばなやレタスなど、本病が発生しやすい作物との輪作を避ける。水田との輪作は防除効果がある。
コナガ	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップ調査における誘殺虫数は、平年並であった。 ・11月の気温は平年よりやや高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期に防除を行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用は避ける。

E 野菜類・花き類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
シロイチモジ ヨトウ	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップ調査における誘殺虫数は、平年よりやや多かった。 ・11月の気温は平年よりやや高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用を避ける。
ハスモンヨトウ	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップ調査における誘殺虫数は、平年よりやや多かった。 ・11月の気温は平年よりやや高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

オオタバコガ	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップ調査における誘殺虫数は、平年並であった。 ・11月の気温は平年よりやや高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期（若齢幼虫期・食入前）に防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
アブラムシ類	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黄色水盤への誘殺虫数は、平年よりやや多かった。 ・11月の気温は平年よりやや高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

(平成23年4月1日より大阪府病害虫防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/> (9月29日付けで、病害虫防除指針内容を更新しました。)

●病害虫発生情報メールサービス

申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・メールサービス担当

TEL 072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mailserVICEmousikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約15件の病害虫情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所

企画部 企画グループ おおさかアグリメール受付担当

TEL 072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

●Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

(大阪府植物防疫協会)